

NSG グループ

2026年3月期 第1四半期決算報告

(2025年4月1日～ 2025年6月30日)

日本板硝子株式会社
2025年8月8日

日本板硝子株式会社
2026年3月期 第1四半期決算報告

日時：2025年8月8日（金）
発表者：執行役常務 CFO 相浦宏
開催形式：Zoomウェビナー

目次



1. 2026年3月期 第1四半期決算概要
2. 2026年3月期 業績予想
3. 米国関税政策の影響
4. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況
5. まとめ

CFOの相浦です。

本日はご多忙の中、弊社決算説明会にご参加頂き、誠に有難うございます。
また常日頃から弊社事業にご理解とご支援を賜り、あらためて御礼申し上げます。

本日の説明内容ですが、2ページにお示した内容になります。
始めに2026年3月期第1四半期決算概要および2026年3月期の業績予想について
ご説明した後、
直近の状況も踏まえた米国関税政策による弊社業績に与える影響について、
また中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況について、
ご説明いたします。

1. 2026年3月期 第1四半期決算概要

連結損益計算書



営業利益は、欧州建築用ガラス事業の改善により前年同期比で増益。
通期純利益への転換に向け順調なスタート。引き続き利益改善のためのあらゆる施策を推進

(億円)	4-6月期		
	2025年 3月期	2026年 3月期	差異
売上高	2,164	2,102	△ 62
営業利益	48	69	21
営業利益率	2.2%	3.3%	+1.1pt
個別開示項目 (純額)	2	17	15
個別開示項目後営業利益	49	85	36
金融費用 (純額)	△ 60	△ 68	△ 8
持分法による投資利益	11	13	2
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	-	△ 4	△ 4
税引前利益	0	27	27
当期利益	27	5	△ 22
純利益 (△損失)*	24	△ 2	△ 26
EBITDA	175	198	23

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

売上高・営業利益

売上高は為替の影響もあり全ての事業において減収。
一方、営業利益は主に欧州の建築用ガラス事業で改善が見られたため増益

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年同期比】

(億円)	売上高	営業利益
建築用	△ 10	+ 33
自動車用	△ 38	△ 2
高機能	△ 14	△ 7
その他	△ 1	△ 3
グループ全体	△ 62	+ 21

個別開示項目 (純額)

主にベトナムフロートガラス社の持分譲渡益
(2025年6月9日公表)

持分法投資に関するその他の利益

関連会社との取引から生じた利益の持分相当額の消去

2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

4

まず、4ページの連結損益計算書からご説明いたします。

ご覧の表の左側が2025年3月期第1四半期の業績、
その右側が2026年3月期第1四半期の業績になります。

当第1四半期の売上高は、2,102億円と、前年同期比62億円の減収となりました。
事業により濃淡はあるものの、円高による為替影響から、若干の減収となりました。

一方で営業利益は、69億円と、21億円の増益となりました。

右側の表にあります通り、

自動車用ガラス事業、高機能ガラス事業が若干の減益になった一方、
欧州の建築用ガラス事業の改善を主因に、
建築用ガラス事業が大幅な増益となったことが要因となっています。

営業利益より下の項目を見て頂くと、個別開示項目は17億円の収益でした。
これには、2025年6月9日に公表しましたベトナムの建築用ガラス製造子会社である
ベトナムフロートガラス社の当社持分の全てを譲渡したことに伴う利益が計上されています。

金融費用は68億円となり、前年同期の60億円から8億円増加しました。

持分法適用会社については、

持分法による投資利益は前年同期から2億円増加し13億円でした。

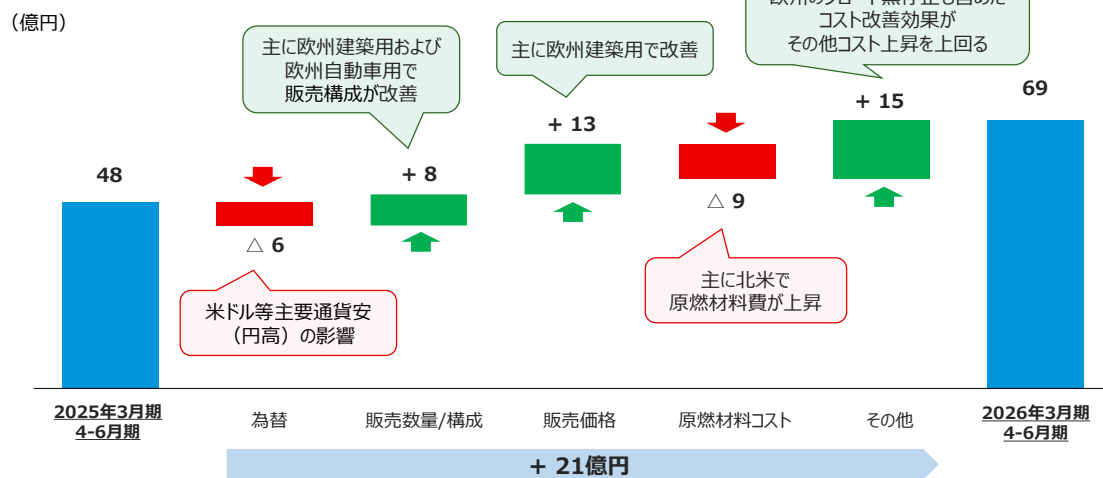
なお持分法投資に関するその他の損失において、関連会社との取引から生じた利益の
持分相当額の消去を実施しております。

法人所得税は通期の見積実効税率に基づき計算しており23億円、
当期利益は5億円となり、少数株主持分を差し引いた純損失は2億円となりました。

営業利益が改善してきており、順調なスタートとなりました。

営業利益差異分析 (4-6月期)

主に欧州の建築用ガラス事業で、販売価格および販売構成が改善。
欧州のフロート窯停止も含めたコスト改善も寄与



2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

5

5ページは、前年同期対比の営業利益の差異分析です。
前年度第1四半期の営業利益48億円から当第1四半期の営業利益69億円へと
21億円の増益となりましたが、その構成要素を示しています。

「為替」による影響は、6億円のマイナスでした。
主に米ドルをはじめとする主要通貨安（円高）による影響です。

「販売数量/構成」は、欧州の建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業で販売構成が改善したため、8億円のプラスとなりました。

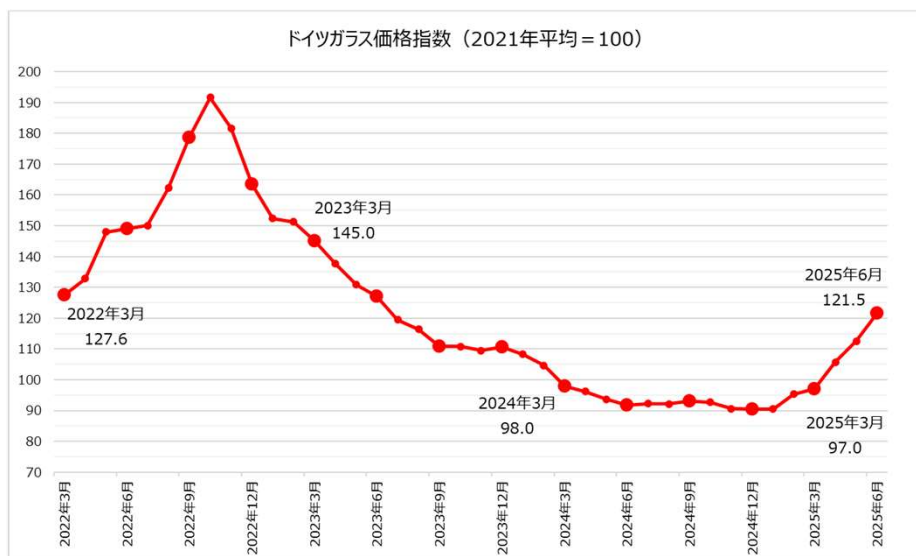
「販売価格」は、13億円のプラスでした。
欧州の建築用ガラス事業でフロート窯2基の生産を停止したことに伴い需給状況が改善し、販売価格が上昇したことが主な要因です。

「原燃材料コスト」は、北米において米国関税政策の影響もあり原燃材料価格が上昇したことなどから、9億円のマイナスとなりました。

「その他」は、15億円のプラスとなりました。
欧州のフロート窯2基の生産停止や欧州の自動車事業でのリストラに伴う資産稼働率の改善や固定費削減の効果をはじめ、様々なコスト削減の効果が人件費等その他のコスト上昇を上回りました。

欧州ガラス価格の推移

フロート窯停止に伴う需給改善を反映し、引き続きガラス価格は上昇



2025年8月8日

2026年3月期 第1四半期決算報告

6

6ページはドイツのガラス価格の推移を示しています。

フロート窯停止に伴う需給の改善を反映し、2025年3月期第4四半期に引き続きドイツのガラス価格は上昇しており、この第1四半期で25%以上上昇しています。

エネルギー価格の推移

欧州天然ガス価格は小幅な値動きで安定して推移。
日本の重油は下落したものの依然高値圏で推移



2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

7

続きまして、7ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、
右側が日本の重油の市場価格の推移になります。

ドイツにおける天然ガスの価格は前年度から継続して安定的に推移しました。
日本における重油価格は第1四半期では下落したものの、引き続き高値圏で推移しました。

連結貸借対照表



自己資本比率は9.9%と前期末比で0.5pt低下。
有利子負債は主に運転資本の季節的な変動と為替影響により若干増加

(億円)	2025年 3月末	2025年 6月末	増減
資産合計	10,329	10,015	△ 315
非流動資産	7,098	7,035	△ 62
流動資産	3,232	2,980	△ 252
負債合計	8,905	8,725	△ 180
流動負債	4,094	3,908	△ 186
非流動負債	4,811	4,817	6
資本合計	1,424	1,290	△ 134
親会社の所有者に帰属する持分	1,081	996	△ 84
自己資本比率 (%)	10.5%	9.9%	△ 0.5pt
有利子負債	5,248	5,325	77

流動資産

主に現金および現金同等物が減少

流動負債

主に仕入債務およびその他の債務の減少

自己資本比率

前期末から0.5pt低下し9.9%。主に
為替の影響により低下したが、アルゼンチン
における超インフレ調整で一部軽減

有利子負債

主に運転資本の季節的な変動と為替
影響により増加

2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

8

8ページは連結貸借対照表になります。

2025年6月末時点の総資産は1兆15億円となり
2025年3月末時点から315億円減少しています。

流動資産は、主に現金および現金同等物が減少した結果、
252億円減少し、
流動負債は、主に仕入債務およびその他の債務が減少したことにより、
186億円の減少となりました。

親会社の所有者に帰属する持分は、前期末から84億円減少し996億円となりました。
これは主に為替の影響によるものですが、アルゼンチンにおける超インフレ調整に伴う
資産価値の増加により一部軽減されました。

この結果、自己資本比率は前期末比で0.5ポイント低下し9.9%となりました。

有利子負債は前期末比で77億円増加し、5,325億円となりました。
これは主に、運転資本の季節的な変動に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスと
為替の影響によるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書



フリー・キャッシュ・フローは運転資本の季節的変動に伴いマイナスだが、営業増益もあり前年同期比で改善。引き続きフリー・キャッシュ・フローの改善により有利子負債の削減を目指す

(億円)	4-6月期		
	2025年 3月期	2026年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 194	△ 150	44
（うち、運転資本の増減）	△ 292	△ 269	23
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 123	△ 115	9
（うち、有形固定資産の取得）	△ 118	△ 132	△ 14
フリー・キャッシュ・フロー	△ 317	△ 264	53
財務活動によるキャッシュ・フロー	223	△ 14	△ 237
現金及び現金同等物の増減	△ 94	△ 278	△ 184
現金及び現金同等物 期末残高	375	347	△ 28

営業活動によるキャッシュ・フロー

運転資本の季節的な変動はあるものの、前年同期比で増加額を抑制。営業増益もあり改善

フリー・キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローの改善により前年同期比で改善

2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

9

9ページは、連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、当第1四半期で、150億円のマイナスでしたが、前年度から44億円改善しました。運転資本の季節的な増加はあるものの、前年同期比で増加額を抑制したことや営業増益となったこともあり改善しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、115億円のキャッシュ・アウト・フローでしたが、前年同期比で9億円改善しました。有形固定資産の取得は前年同期比やや増加したものの、ベトナムフロートグラス社の当社持分譲渡によるキャッシュの取得があったことが要因です。

以上により当第1四半期のフリー・キャッシュ・フローは、264億円のマイナスとなり、前年同期から53億円改善しました。

引き続き、営業利益の改善と運転資本の削減に努め、フリー・キャッシュ・フローの改善と有利子負債の削減に努めます。

セグメント情報



(億円)	2024年3月期 4-6月期			2025年3月期 4-6月期			2026年3月期 4-6月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
建築用ガラス事業	958	46%	119	902	42%	33	892	42%	67	△ 10	33
欧州	381	18%		345	16%		340	16%		△ 5	
アジア	268	13%		271	13%		269	13%		△ 2	
米州	308	15%		287	13%		283	13%		△ 4	
自動車用ガラス事業	1,009	49%	32	1,136	52%	25	1,098	52%	24	△ 38	△ 2
欧州	425	20%		476	22%		460	22%		△ 16	
アジア	179	9%		196	9%		193	9%		△ 2	
米州	405	19%		464	21%		444	21%		△ 20	
高機能ガラス事業	100	5%	21	124	6%	20	110	5%	13	△ 14	△ 7
欧州	25	1%		28	1%		29	1%		1	
アジア	71	3%		91	4%		77	4%		△ 13	
米州	4	0%		5	0%		4	0%		△ 1	
その他	13	1%	△ 27	2	0%	△ 31	1	0%	△ 34	△ 1	△ 3
合計	2,080	100%	146	2,164	100%	48	2,102	100%	69	△ 62	21

2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

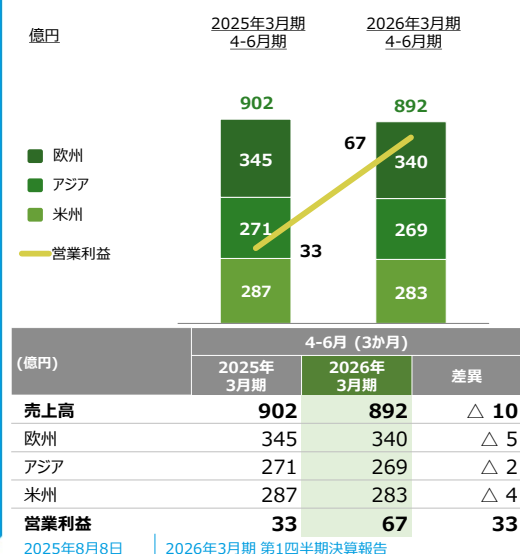
10

10ページは、事業セグメント毎に過去3か年度の第1四半期の売上高および営業利益を示しています。
各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

建築用ガラス事業 (減収・増益)



売上高は為替影響により減少したが、営業利益は特に欧州において販売価格が改善し大幅に増加。
太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調に推移



欧州 (減収・増益)

- 販売価格がドイツのフロート窯停止による需給改善に伴い上昇 (2024年6月に1基、2025年1月に1基停止)
- 販売構成も改善
- フロート窯停止に伴うコスト改善も寄与

アジア (減収・増益)

- 日本では販売数量/構成および販売価格低下
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調
- ベトナムフロートガラス社の当社持分の譲渡を完了

米州 (減収・減益)

- 北米は商業用不動産市場の需要軟化が継続
- 南米は主にアルゼンチンでの販売数量が改善
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調。
新設備の立ち上げ費用が発生したがほぼ計画通り

11

11ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、売上高は為替の影響により前年同期から減少しましたが、一方で営業利益は特に欧州において販売価格が大幅に改善したため大幅に増加しました。太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調に推移しています。

欧州は、減収ながら増益となりました。

当社はじめ業界各社でのフロート窯の停止により、供給サイドからの需給の改善が進み、欧州のガラス価格のスライドでもご説明しましたが、同様に当社の販売価格も大幅に改善しています。

また、フロート窯2基の停止により、資産稼働率の改善、固定費の削減によるコスト改善にも寄与しています。

また、販売構成についても改善しています。

アジアも、減収ながら増益となりました。

日本では、新設住宅着工戸数が減少していることもあり販売数量/構成および販売価格が低下しました。

太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調に推移しています。

なお、2025年6月9日に公表しました通り、ベトナムの建築用フロート板ガラス製造子会社であるベトナムフロートガラス社の当社持分の譲渡を完了しました。

米州は、減収減益でした。

北米は、商業用不動産市場の需要軟化が継続しました。

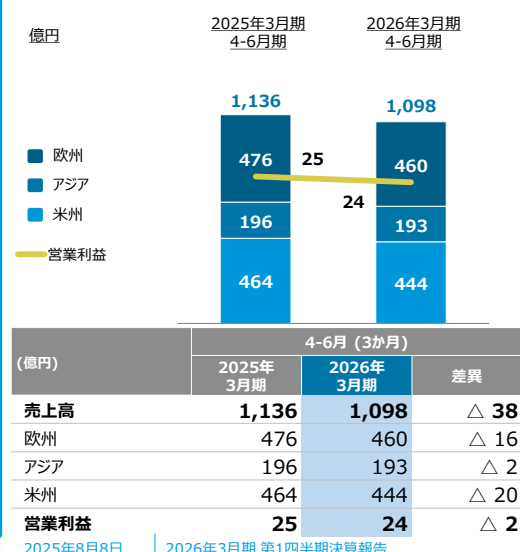
南米は、アルゼンチンでの販売数量が改善しました。

太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調ですが、ほぼ計画通りではあったものの米国オハイオ州ロスフォード工場の立ち上げ費用が発生しました。

自動車用ガラス事業 (減収・減益)

売上高は為替影響もあり前年度比で減少。

コスト上昇の影響も受けたが、補修用の改善により営業利益は前年度並み



欧州 (減収・減益)

アジア (減収・減益)

米州 (減収・増益)

- 欧州、日本、北米では新車用の販売数量および販売価格が伸び悩んだが、補修用で販売数量/構成および販売価格が改善
- 南米では、ブラジルにおいて販売数量が改善
- ドイツ工場（2025年1月24日公表）、イタリア工場等欧州での生産体制見直しは計画通り進捗
- 引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を推進

12ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、為替の影響もあり売上高は前年同期比で減少しました。コスト上昇の影響も受けた一方で、補修用ガラス事業の改善により営業利益は前年度並みとなりました。

欧州、日本、北米では新車用ガラス事業の販売数量および販売価格が伸び悩みました。欧州では、新車の販売台数が引き続き低水準で推移しています。日本では、国内販売用自動車向けは増加しましたが、米国関税政策の影響を受けて輸出用自動車向けが減少しました。一方で補修用ガラス事業が、販売数量/構成が改善し、特に北米では、関税政策により高い税率が適用される競合品との関税額の差が販売価格上昇に大きく寄与しました。

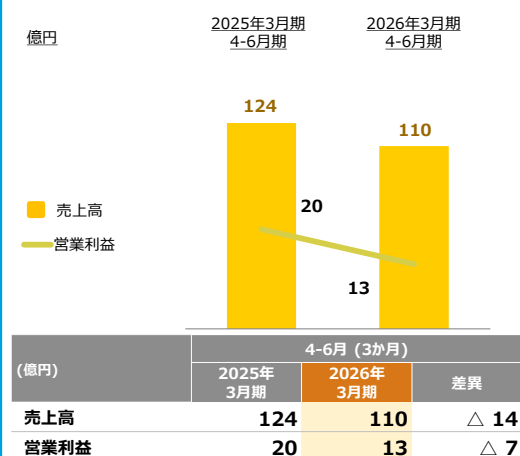
南米では、ブラジルにおいて販売数量が改善しました。

収益性改善のための施策として実施しています、ドイツ工場およびイタリア工場をはじめとした、主に欧州における生産体制の見直しも計画通り進捗しています。

中長期的には自動車生産台数の緩やかな改善に伴う需要回復を見込んでおり、引き続き継続的なコスト削減努力や製品の高付加価値化とともに販売価格改善も進め、収益性改善に努めてまいります。

高機能ガラス事業 (減収・減益)

売上高および営業利益は、一部製品の販売構成の影響を受け減少



- ファインガラスは、一部製品の販売が下期にずれ込むことにより販売構成に影響
- プリンター用レンズは、プリンターおよびスキャナーに対する需要減少の影響を受ける
- グラスコードは補修用市場での堅調な需要が継続
- メタシャイン® は化粧品向けで増加

2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

13

続きまして13ページです。

高機能ガラス事業は、売上高および営業利益は、一部製品の販売構成の影響を受けたため減少しました。

ファインガラスは、一部製品の販売が下期にずれ込むことにより販売構成に影響がありましたが、これは当初より想定していたものです。

プリンター用レンズは、取引先で米国関税政策の動向を見極める動きもあり、プリンターおよびスキャナーに対する需要減少の影響を受けました。

グラスコードは、エンジン用タイミングベルトの補修用市場での強い需要が継続しました。

メタシャイン®は化粧品向けで売上高が増加しました。

2. 2026年3月期 業績予想

2026年3月期 業績予想



業績予想は変更なし。

引き続き通期純利益への転換、利益改善のためのあらゆる施策をグループ横断で実施

(億円)	2025年3月期 実績		2026年3月期 予想		差異	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	4,224	8,404	4,200	8,500	△ 24	96
営業利益	102	165	100	310	△ 2	145
個別開示項目 (純額)	△ 0	△ 52	10	10	10	62
個別開示項目後営業利益	102	112	110	320	8	208
金融費用 (純額)	△ 126	△ 253	△ 130	△ 270	△ 4	△ 17
持分法による投資利益	25	55	30	60	5	5
税引前利益 (△損失)	2	△ 85	10	110	8	195
当期利益 (△損失)	△ 34	△ 135	△ 20	40	14	175
純利益 (△損失)*	△ 39	△ 138	△ 30	20	9	158

2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

15

続いて2026年3月期の業績予想です。

第1四半期は順調なスタートとなったものの、米国関税政策などによる不確定要素は依然継続しているため、業績予想は変更しておりません。

2026年3月期の売上高は8,500億円、営業利益は310億円と2025年3月期比で増収増益を予想しています。

引き続き利益改善に向けて、グループ全体でのさらなるコスト削減等あらゆる施策を実施し、2026年3月期の黒字回復に向けて全社一丸となって取り組みます。

数値予想の前提は、次のスライドでご説明いたします。

2026年3月期 業績予想の前提

グループ	米国関税政策による不確定要素はあるが、欧州市場は下期以降緩やかに改善し通期純利益への転換を予想。 グループ全体でのさらなるコスト削減等、早期の利益改善に向けてあらゆる施策を実施 ● 主要通貨について2025年3月期より円高を見込む ● エネルギー価格や原材料価格は上昇、インフレによる人件費等その他コスト増加も継続 ● 米国関税政策の動向を注視 ● コスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続
建築用ガラス	欧州市場は下期以降緩やかに改善。太陽電池パネル用ガラスについて米国関税政策の動向を注視 ● 欧州：フロート窯生産停止によるコスト削減と販売価格上昇が寄与 ● アジア：日本では建築需要の先行きに注意 ● 北米：経済見通しの不透明に伴い需要減少の可能性。米国の関税政策を含む経済動向を注視 ● 南米：アルゼンチンで販売数量改善の兆し。超インフレに伴うコスト上昇を価格転嫁で吸収 ● 太陽電池パネル用ガラス：堅調な需要が継続、米国の新設備が貢献の一方で米国関税政策の動向を注視
自動車用ガラス	コスト増加の影響が続くが、販売価格改善交渉を継続。 米国関税政策による米国向け自動車生産に対する需要減少の影響の可能性 ● 米国関税政策による米国向け自動車生産に対する需要動向を注視の一方、競合の製品に対して高い税率が適用されることで米国補修用市場において比較的優位となる可能性 ● 欧州での生産体制見直しに伴うコスト削減が寄与 ● 引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により収益性改善を目指す
高機能ガラス	多くの事業で需要は堅調に推移。コスト増加の影響を販売数量および販売価格の改善で吸収 ● 各事業で前年度に回復した需要が堅調に推移し、特に下期にファインガラスで製品構成が改善

2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

16

スライド16に移ります。

グループ全体としては、

米国関税政策が業績に与える不確定要素はありますが、業績予想の前提も基本的には前回から変更はなく、欧州の市場は下期以降緩やかに改善すると見ており、通期純利益への転換を予想しています。

主要通貨は、昨今の為替情勢を踏まえ、2025年3月期と比較し円高を見込んでいます。エネルギー価格や原材料価格は上昇し、世界的なインフレ傾向の影響を受け人件費等その他のコストの増加も継続すると見ています。

米国関税政策については、その動向を注視しつつ

関税を含めたコスト増加に対して価格転嫁等の対応を実施する方針です。

引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続し、業績改善に努めます。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業は、

欧州においては、フロート窯2基の生産停止によるコスト削減の効果と販売価格の上昇に加え、下期以降市場の緩やかな改善を見込んでいます。

日本では、引き続き価格は安定していますが、建築需要の先行きに注意が必要と考えています。

北米では、米国関税政策の影響や、経済見通しの不透明な状況に伴う投資控え等により、需要が減少する可能性があります。

南米ではアルゼンチンにおいて販売数量の改善の兆しが見られます。

超インフレに伴うコスト上昇は続きますが、価格転嫁でその影響を吸収します。

太陽電池パネル用ガラスは、米国オハイオ州ロスフォードの新設備が立ち上がり、通期で貢献しますが、米国関税政策が取引先の生産状況に影響を与える可能性があり、その動向には注意を払う必要があります。

自動車用ガラス事業では、
米国向けの欧州および日本における自動車生産台数については、
米国関税政策の影響を受けると見ており、その需要動向に注視が必要です。
一方、競合の製品に対して高い税率が適用されることで
米国補修用市場において比較的優位となる可能性もあります。
欧州の生産体制見直しに伴うコスト削減が寄与しますが、
引き続き人件費等コスト増加の影響も予想され、販売価格の改善交渉を継続します。
コスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を進め、
さらなる収益力の向上を目指します。

高機能ガラス事業では、
事業を行う多くの市場で需要は引き続き堅調に推移し、
販売数量および販売価格の改善によりコスト増加の影響を吸収していくことを目指します。
特にファインガラス事業では、下期における製品構成の改善が寄与する見込みです。

3. 米国関税政策の影響

米国関税政策の影響



**ガラス製品は基本的には地産地消。
先行きが不透明だが、引き続き政策動向を注視しつつ価格転嫁等により対応**

1. 売上高に対する影響

(1) 建築用

- ・ 米国内では経済先行き不透明に伴う投資控え、需要減少の可能性
- ・ 太陽電池パネル用ガラスは米国関税政策の動向を踏まえた取引先の生産状況の影響を受ける可能性、一方で競合の中国製品には高い税率の適用

(2) 自動車用

- ・ 新車用
米国内向けの自動車生産に対する需要減少の影響を受ける可能性
- ・ 補修用
メキシコで生産する一部製品の価格上昇に伴う需要減少の可能性、一方で高い税率が適用される競合の中国製品との関税額の差が販売価格上昇に寄与

2. コストに対する影響

- ・ 原燃材料コストが増加する可能性はあるが、価格転嫁により軽減

2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

18

18ページをご覧ください。

米国関税政策の影響について直近の状況も踏まえご説明します。
ガラス製品は重量があり、壊れやすいことから基本的に地産地消であり、
米国関税政策の影響はそれほど大きくはないと想定しています。

まず、売上高に対する影響としては

一般建築用については、

前述の通りガラス製品は基本的に地産地消なので、米国内市場の問題に限られます。

米国においては経済先行き不透明に伴う投資控えが起き、需要が減少する可能性があります。

太陽電池パネル用ガラスについては、

関税政策の動向を踏まえた取引先の生産状況の影響を受ける可能性がありますが、
競合する中国製品等に対しては高い関税が適用される可能性があります。

自動車用ガラス事業は新車用と補修用に分類されますが、

新車用に関しては、欧州および日本において米国向けの自動車生産需要が減少し、
その影響を受ける可能性があります。

補修用については、

メキシコで生産する一部製品が将来関税の影響を受ける可能性があります、

一方、競合する中国製品に対してはさらに高い税率が適用されており

その関税額の差が販売価格上昇に寄与するとの見方が強く、

実際に第1四半期には北米で補修用ガラスの販売価格が上昇しました。

コストに対する影響としては、原燃材料コストが増加する可能性があります。
この影響は価格転嫁により軽減する方針です。

先日日本およびEUとの関税が合意したものの今後の見通しは依然不透明ではあります。
引き続き政策の動向を注視しつつ関税やコスト増加に対して価格転嫁等により対応する方針
です。

4. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」 財務目標の進捗状況

「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況



欧州経済減速の影響を大きく受けた前年から回復傾向。

引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力

		2027年3月期 目標	2030年3月期 目標	2026年3月期（4-6月期） 実績
収益性（P/L）	営業利益	640億円		69億円：欧州建築用ガラス事業の改善により 前年同期比で増益
	営業利益率（ROS）	7%	10%以上	3.3%：前年同期比で1.1pt改善
キャッシュ創出（C/F）	フリー・キャッシュ・フロー	270億円		△264億円：運転資本の季節的変動により、マイナス
財務基盤の安定化（B/S）	有利子負債	4,420億円		5,325億円：前期末から77億円増加
	自己資本比率	15%		9.9%：前期末から0.5pt低下

2025年8月8日

2026年3月期 第1四半期決算報告

2030 Vision : Shift the Phase 説明資料

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtp2030presentation_j02.pdf

20

20ページでは中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の進捗状況についてご説明します。

2025年3月期から2030年3月期までの6年間を対象とする

中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」においては、

収益性を向上させキャッシュ創出力を高め財務基盤を

改善することに徹底して注力することを目標にしています。

そのため、収益性（P/L）、キャッシュ創出（C/F）、財務基盤の安定化（B/S）について2027年3月期において達成すべき財務目標を5つ掲げております。

まず、営業利益については、69億円と欧州における経済減速の影響を大きく受けた前年同期比で増益となりました。

これは特に建築用ガラス事業の改善によるものです。

営業利益率は3.3%と、前年同期比で1.1ポイント改善しました。

フリー・キャッシュ・フローについては、運転資本の季節的な増加の影響を受け、264億円のマイナスでしたが、年度末に向けて改善していく見込みです。

有利子負債はフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより5,325億円と前期末の5,284億円から77億円増加しました。

自己資本比率は9.9%で、前期末から0.5ポイント低下しています。

今後も引き続き、グループ全体でのさらなるコスト削減等、早期の利益改善に向けてあらゆる施策を実施し、着実に収益性とキャッシュの創出力を強化していき、有利子負債の削減および自己資本比率の改善を図ってまいります。

5. まとめ

まとめ



1. 2026年3月期 第1四半期決算概要

- 営業利益は、欧州建築用ガラス事業の改善により前年同期比で増益。通期純利益への転換に向け順調なスタート
- 主に欧州の建築用ガラス事業で、販売価格および販売構成が改善。欧州のフロート窯停止も含めたコスト改善も寄与
- 自己資本比率は9.9%と前期末比で0.5pt低下。フリー・キャッシュ・フローは運転資本の季節的な変動によりマイナス。有利子負債も前期末比で増加

2. 2026年3月期 業績予想

- 業績予想は変更なし。
引き続き通期純利益への転換、利益改善のためのあらゆる施策をグループ横断で実施

3. 米国関税政策の影響

- ガラス製品は基本的には地産地消。
先行きが不透明だが、引き続き政策動向を注視しつつ価格転嫁等により対応

4. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況

- 欧州経済減速の影響を大きく受けた前年から回復傾向。
引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境および競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料



- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高および営業利益
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費

連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2024年 3月期				2025年 3月期				2026年 3月期
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期
売上高	2,080	2,122	1,925	2,198	2,164	2,060	2,075	2,104	2,102
営業利益 (△損失)	146	115	61	38	48	55	6	57	69
営業利益率	7.0%	5.4%	3.2%	1.7%	2.2%	2.7%	0.3%	2.7%	3.3%
個別開示項目 (その他)	△ 8	11	6	△ 8	2	△ 2	△ 25	△ 27	17
個別開示項目後営業利益 (△損失)	138	125	67	29	49	53	△ 19	30	85
金融費用 (純額)	△ 64	△ 77	△ 64	△ 78	△ 60	△ 66	△ 56	△ 71	△ 68
持分法適用会社に対する金融債権の 減損損失の戻入益 (△損失)	37	-	-	-	-	-	-	-	-
持分法による投資利益	10	12	15	14	11	14	12	18	13
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	11	△ 0	△ 1	△ 0	-	-	-	-	△ 4
税引前利益 (△損失)	133	61	17	△ 35	0	1	△ 64	△ 23	27
当期利益 (△損失)	75	30	36	△ 32	27	△ 61	△ 59	△ 42	5
純利益 (△損失)*	70	27	37	△ 29	24	△ 63	△ 62	△ 38	△ 2
EBITDA	253	226	170	168	175	175	130	177	198

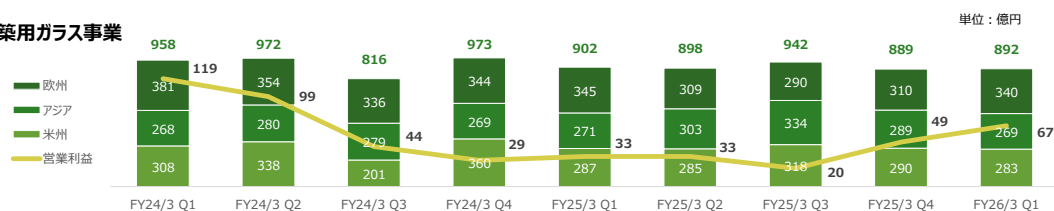
2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失) 25

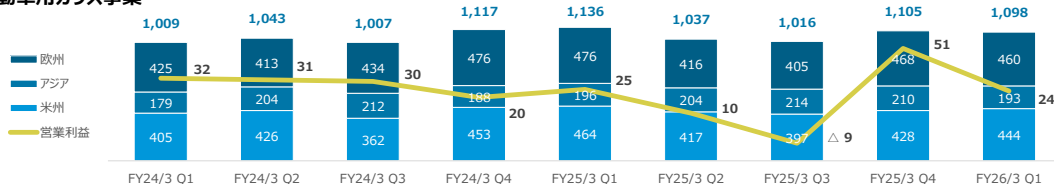
事業部門別・地域別売上高および営業利益 四半期別推移

NSG
GROUP

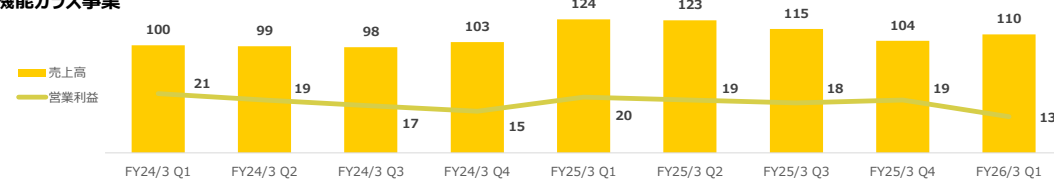
建築用ガラス事業



自動車用ガラス事業



高機能ガラス事業



2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

26

セグメント情報



(億円)	2024年3月期					2025年3月期					2026年 3月期
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期
売上高: 建築用ガラス	958	972	816	973	3,718	902	898	942	889	3,630	892
欧州	381	354	336	344	1,415	345	309	290	310	1,254	340
アジア	268	280	279	269	1,096	271	303	334	289	1,197	269
米州	308	338	201	360	1,206	287	285	318	290	1,180	283
営業利益	119	99	44	29	291	33	33	20	49	136	67
売上高:自動車用ガラス	1,009	1,043	1,007	1,117	4,176	1,136	1,037	1,016	1,105	4,294	1,098
欧州	425	413	434	476	1,747	476	416	405	468	1,765	460
アジア	179	204	212	188	783	196	204	214	210	823	193
米州	405	426	362	453	1,645	464	417	397	428	1,707	444
営業利益	32	31	30	20	113	25	10	△ 9	51	77	24
売上高:高機能ガラス	100	99	98	103	399	124	123	115	104	466	110
欧州	25	26	26	30	106	28	23	23	28	102	29
アジア	71	69	67	69	275	91	95	89	72	347	77
米州	4	5	5	4	18	5	5	3	4	17	4
営業利益	21	19	17	15	71	20	19	18	19	76	13
売上高:その他	13	8	5	6	33	2	2	3	6	13	1
営業利益	△ 27	△ 34	△ 30	△ 26	△ 117	△ 31	△ 7	△ 23	△ 62	△ 123	△ 34
売上高:合計	2,080	2,122	1,925	2,198	8,325	2,164	2,060	2,075	2,104	8,404	2,102
営業利益	146	115	61	38	359	48	55	6	57	165	69

2025年8月8日 | 2026年3月期 第1四半期決算報告

27

地域別売上高および営業利益



(億円)	2025年3月期 4-6月期			2026年3月期 4-6月期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	849	39%	△ 52	830	39%	△ 3	△ 19	49
アジア	557	26%	74	540	26%	64	△ 17	△ 11
米州	756	35%	56	731	35%	42	△ 25	△ 13
その他 *	2	0%	△ 31	1	0%	△ 34	△ 1	△ 3
合計	2,164	100%	48	2,102	100%	69	△ 62	21

* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

個別開示項目



(億円)	2025年3月期 4-6月期	2026年3月期 4-6月期
子会社および事業の売却による収益	-	18
係争案件の解決に係る費用	△ 0	△ 0
リストラチャリング費用	△ 0	△ 1
非流動資産の売却による収益	3	-
非流動資産の減損損失の戻入益	0	-
非流動資産の減損損失	△ 1	-
個別開示項目 純額	2	17

為替レート・為替感応度

期中平均レート

	2024年 3月期				2025年 3月期				2026年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
英ポンド	172	177	179	182	197	195	195	194	193
ユーロ	150	153	154	157	168	165	164	163	164
米ドル	138	140	143	144	156	152	152	152	145
ブラジル・レアル	27.7	28.6	29.0	29.4	29.9	28.3	27.5	27.1	25.5
アルゼンチン・ペソ	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用								

2026年 3月期
見通し
191
159
143
26.5

期末レート

	2024年 3月期				2025年 3月期				2026年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
英ポンド	183	182	181	191	204	191	196	193	197
ユーロ	158	157	157	163	173	159	162	161	168
米ドル	145	148	143	152	162	143	157	148	144
ブラジル・レアル	29.8	29.5	29.2	30.4	29.3	26.2	25.3	25.9	26.2
アルゼンチン・ペソ	0.57	0.42	0.18	0.18	0.18	0.15	0.15	0.14	0.12

為替感応度

他の前提に変動がない条件で、
為替レートが他の通貨に対して
1%変動した場合の影響額

	2025年 3月期
資本	37.0億円
当期利益	1.0億円

減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2025年3月期 4-6月期	2026年3月期 4-6月期	2026年3月期 通期見通し
減価償却費	127	129	520
資本的支出	80	79	440
通常投資	50	64	260
戦略投資	30	15	180
研究開発費	26	26	115
建築用ガラス事業	9	9	40
自動車用ガラス事業	8	8	34
高機能ガラス事業	2	2	11
その他	7	7	29

